

マルコの福音書 4章 1-20節 イエスに従う者はイエスに耳を傾ける

ただ耳に入ってくる音を聞くことと理解しようと耳を傾けて聴くことは違うということをご存知ですね。

そのことをよく理解している妻である皆さんが大勢いるのではないのでしょうか。固定観念的かもしれませんが、私たち夫の多くは、妻から言われたことに反応するのは上手ですが、妻が言っていることに耳を傾けていません。頼まれたことには一つ返事で「イエス」と答えますが、いざ催促されると「そんなこと頼まれた覚えはありません。」と言います。マルコによる福音書第4章を始める今日、イエスが「イエスに従う者とは何か」という問いの中で取り上げられるのは、そのような状況です。そして、私たちは本当にイエスに耳を傾けているのだろうかと自問しなければなりません。マルコの福音書4章1節から20節では、イエスが一連のたとえ話の最初の部分を取り上げ、それを聞いている人々に語りかけ、さらに弟子たちには詳しく説明されます。たとえ話はマルコにはあまり出てきません。実際、マルコによる福音書4章は、イエスのたとえ話が見られる唯一の箇所であり、イエスの教えの詳細な部分が見られる2つの章のうちの一つです。このたとえ話の中で、イエスは神の御言葉、つまり神としてのご自身の御言葉と、それに対する私たちの応答について論じておられます。私たちが見るのは、イエスに従う者はイエスに耳を傾けることです。まず、1節と2節にあるこのたとえ話の導入部を読みましょう。

1 イエスは、再び湖のほとりで教え始められた。非常に多くの群衆がみもとに集まったので、イエスは湖で、舟に乗って腰を下ろされた。群衆はみな、湖の近くの陸地にいた。2 イエスは、多くのことをたとえによって教えられた。その教えの中でこう言われた。

いま一度、群衆が集まるという問題を目にします。そしてまた、群衆は真のキリスト信者で構成されているわけではありませんでした。しかし、あまりに人が多いので、イエスは群衆に押しつぶされないように、舟に乗ってそこから教えられました。最初にこれを読むと、ちょっと奇妙に聞こえるかもしれませんが、ガリラヤ海には、この状況で何千人もの人々が誰かの話を聞くことができる可能性のある場所があります。ガリラヤ湖の入り江に傾斜したなだらかな丘からなる自然の円形劇場があります。ここは今日「たとえ話の湾」と呼ばれ、岸边にいる数千の人々が湾の中心にいる人の声を聞くことができます。ですから、イエスは舟の中から群衆に語りかけられます。そして、3節から始まるイエスの教えを確かに聞くことができます。

3 「よく聞きなさい。種を蒔く人が種蒔きに出かけた。4 蒔いていると、ある種が道端に落ちた。すると、鳥が来て食べてしまった。5 また、別の種は土の薄い岩地に落ちた。土が深くなかったのですぐに芽を出したが、6 日が昇るとしおれ、根がつかずに枯れてしまった。7 また、別の種は茨の中に落ちた。すると、茨が伸びてふさいでしまったので、実を結ばなかった。8 また、別の種は良い地に落ちた。すると芽生え、育って実を結び、三十倍、六十倍、百倍になった。」9 そしてイエスは言われた。「聞く耳のある者は聞きなさい。」

このたとえ話がどのように始まり、どのように終わるかに注目する必要があります。3節は「聞きなさい」という命令で始まります。そして9節は「聞きなさい」という命令で終わっています。「私の言うことを聞きなさい！」これがイエスの言わんとすることの要点です。このことは、イエスが弟子たちにたとえ話を説明される中で明らかになります。表面的には、イエスは一人の農夫である男が地面に種を蒔きに行く話をしておられます。その種は、投げ蒔かれたとき、4つの異なる結果をもたらされます。最初の蒔かれた種は地面に落ちますが、土の中には入りませんでした。鳥が来て食べてしまいました。二番目に蒔かれた種は浅い土に落ち、根を伸ばすことができず、枯れて死んでしまいました。第三の種は、いばらが生い茂る土に入り、種が実らせるはずの作物は枯れてしまいました。最後に、農夫が求める穀物を実際に実らせる第4の種があります。さて、イエスが私たちに望んでいるのは、単に物語を聞くことだけではないことは明らかです。このたとえ話、この物語が重要であることは、マルコが福音書にこのたとえ話を載せ、ペテロがこのたとえ話をマルコに伝えるべきだと考えたからというだけではありません。主がこの話の始めと終わりで「これに耳を傾けなさい」と言っているということは、本来の聞き手、つまりイエスに従う者たちは、このたとえ話が何か重要なことを言っているのだから、絶対に注意を払うべきだということです。残念なことに、私たちが群衆について知っていることは、彼らのほとんど

はイエスの声を聞いてはいても、イエスの言っていることに耳を傾けてはいないということです。しかしその後、焦点は12弟子に向けられます。そして次の3節で、この「聞きなさい」という命令の意味が明らかにされます。弟子たちに向けられたこれらの節は、3-9節のたとえ話の説明と、13-20節のたとえ話の説明の両方をつないでいます。10節から読みましょう。

10 さて、イエスだけになったとき、イエスの周りにいた人たちが、十二人とともに、これらのたとえのことを尋ねた。 11 そこで、イエスは言われた。「あなたがたには神の国の奥義が与えられていますが、外の人たちには、すべてがたとえで語られるのです。 12 それはこうあるからです。『彼らは、見るには見るが知ることはなく、聞くには聞くが悟ることはない。彼らが立ち返って赦されることのないように。』」

この3節で、イエスは群衆と真の信者の違いをもう一度定義しておられます。その違いは、「聞く」という言葉で明確になります。群衆は厳密には話を「聞いた」のですが、言葉を聞くことと、その言葉の意味を理解して聞くこととは違います。さて、イエスはこのたとえ話を弟子たちに説明していかれますが、11節に、このたとえ話の真意とマルコがこのことを語る理由が書かれています。単なる群衆の一員ではなく、真にイエス・キリストに従う者だけが、真の神の御言葉を認識することができます。真の神の御言葉とは、福音書記者であり弟子でもあるヨハネが描写しているように、受肉した神の御言葉であるイエスのことです。

ヨハネの福音書 1章 14節 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

そこでイエスの話に耳を傾けていた群衆の多くにとって、神の御国の真理は明らかではありませんでした。たとえ話をする人が神の御子であり、私たちを罪から救うために肉となった神の御言葉であるということが。しかし、真の弟子としてイエスに従う人々には、イエスは次のようなものが与えられていると言われます。

神の国の奥義。ですから私たちは、肉体を持った神である受肉したイエス・キリストを通してのみ、神の御言葉を真に耳を傾けて聴くことができるのです。それが受肉の意味です。群衆の大多数は理解することができず、実際に耳を傾けて聞くことができませんでした。神の御国の秘密、神のおっしゃることを理解することは、イエス・キリストに弟子として従う者のみにもたらされます。イエスとの交わりにおいてのみ、このたとえ話やイエスのたとえ話は、イエスの時代の聞き手、そして現代の私たちにも神の御国の理解を明らかにされます。イエスに従うことに心を砕いている人々には、この秘密の理解が与えられ、群衆の中のその他の人々は、イエスに対する不信仰と、イエスの言わんとすることを真に聞かないことによって、真の意味を聞き逃すこととなります。そして、イエスに耳を傾けず、イエスの御言葉の真理を聞くことがない最悪の部分は、結果としてあなたがまだ罪人のまま立ち去ることです。

ですから、イエスは12節の終わりでこう言われます。**彼らが立ち返って赦されることのないように。**

もし彼らが本当にイエスに耳を傾け、信じるなら、罪の赦しを見出すでしょう。もちろん、イエスはある程度、これは意図的なものだと言っているようです。誰が実際にイエスに聞き従うかを選ぶのは神である、という考えを暗に示しているのです。福音に応答する人間の自由意志と、神が主権を持って人々を救いに導かれるという聖書の真理との間には緊張関係があります。イエスはここでの発言の仕方において、神の主権を認めているにすぎません。

しかし、重要なのは、神の言葉を本当に聞き、それを受け取るためには、神の御言葉であるイエスに従わなければならないということです。そこでイエスは、13節からこのたとえ話を説明されます。そして13節ですぐに、このたとえ話がいかに重要であるかを指摘されます。

13 そして、彼らにこう言われた。「このたとえが分からないのですか。そんなことで、どうしてすべてのたとえが理解できるでしょうか」イエスに従うとはどういうことなのか、イエスの言うことを聞くとはどういうことなのかを定義するものであるからこそ、イエスは彼の弟子たちがこのたとえ話を理解することを必要とされていたのです。そしてイエスは14節で説明が続けられます。

14 種蒔く人は、みことばを蒔くのです。15 道端に蒔かれたものとは、こういう人たちのことです。みことばが蒔かれて彼らが聞くと、すぐにサタンが来て、彼らに蒔かれたみことばを取り去ります。16 岩地に蒔かれたものとは、こういう人たちのことです。みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れますが、17 自分の中に根がなく、しばらく続くだけです。後で、みことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます。18 もう一つの、茨の中に蒔かれたものとは、こういう人たちのことです。みことばを聞いたのに、19 この世の思い煩いや、富の惑わし、そのほかいろいろな欲望が入り込んでみことばをふさぐので、実を結ぶことができません。20 良い地に蒔かれたものとは、みことばを聞いて受け入れ、三十倍、六十倍、百倍の実を結ぶ人たちのことです。」

農夫が蒔いている種は神の御言葉であり、少なくともこの場合は福音と実際同義です。鳥に食べられた道ばたの種は、福音に決して反応しない、実はサタンによって彼らが耳で聞いたことを心で聞けなくされていた人々のことです。これはイエスの話を聞いた群衆の大多数です。次のグループは、最初は福音に應えると告白するかもしれませんが、キリストご自身には根差していません。彼らは真に従う者ではなく、信仰から徐々に離れていくようです。実は、キリストへの信仰に根差していなかったのです。彼らは真に福音を聞き、悔い改めてキリストを主と信じる信仰として応えていなかったのです。第三のグループもよく似ていますが、彼らはこの世を愛し、自分の持っているものを愛しているため、自分の「もの」は何一つ彼らを救うことはできない、ただイエスだけが救うことができるというメッセージに反応できないのです。彼らは、一見うまくいっているように見える自分の人生を捨てて、イエスに従おうとはしないのです。しかし、このたとえ話の強調点は、神の御言葉を実際に従うように聞くことにあることを忘れてはなりません。だから、最後の種はそのような人を表しているのです。

彼らは神の御言葉、福音を聞き、そのメッセージを受け入れます。そこには罪の悔い改めとイエス・キリストへの信仰があります。彼らの人生は福音によって変えられ、福音は彼らの人生に実を結びます。弟子たちは新しい弟子を作るために宣教に遣わされていきます。ある者は他の者ほど実を結ばないかもしれませんが、すべての者が悔い改めと信仰の実を結び、人生に変化がもたらされます。それが、福音を本当に聞くということなのです。従順に応答することで、人生が変わるのです。

問題は、神の御言葉をどこで聞くかということです。イエスは物理的に私たちと一緒にいて教えてくださいませるわけではありません。しかし、聖書という書物の中に、私たちは神の御言葉を持っています。イエスが私たちが聞くことを望まれるすべてを私たちが間違いなく知るために保存されている、神の靈感を受けて書かれた、誤りのない神のことばがあります。それがこの書全部です。これは神の御言葉そのものなのです。ですから、このたとえ話とイエスが弟子たちに言われたことは、現代の私たちにもそのまま適用するのです。キリストに従う者として、私たちが耳を傾け、耳を澄まして聞かなければならないのは神の御言葉です。

私たちは、ただ聖書を開いて読んだり、礼拝堂の座席に座って説教を聞くだけでは不十分です。私たちはそれを本当に聞き、受け取り、受け入れ、従う必要があります。私たちがイエスに従う方法は主の言うことを聞き従う事です。私たちは、神の言葉を私たちの人生に深く根付かせ、私たちがイエス・キリストに従う者であることを示す実を私たちのうちに結ばせることによって、実践するのです。この世で最も大切なもの、すなわち神の御言葉に啓示されているイエス・キリストの福音に集中できるようにこの世の物に惑わされないようにします。そうすることができるのです。クリスチャンの皆さん、今日ここにいるあなたたちの中には、まだイエスの御言葉を聞いて人生が変わっていない人たちがいます。つまり、耳で聞いても、実際、自分の人生を変えられるようにイエスに耳を傾けて心で聞いていないのです。ヤコブの書はそんなあなたをこう描写しています。

ヤコブの手紙 1:23 みことばを聞いても行わない人がいるなら、その人は自分の生まれつきの顔を鏡で眺める人のようです。24 眺めても、そこを離れると、自分がどのようであったか、すぐに忘れてしまいます。25 しかし、自由をもたらす完全な律法を一心に見つめて、それから離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならず、実際に行う人になります。こういう人は、その行いによって祝福されます。

兄弟姉妹の皆さん、私たちが真に聞くということは、聞いたことに基づいて行動し、神の御言葉の実を私たちの人生にはっきりとならせるということです。

今日ここにおられる方々の中には、御言葉、すなわち福音を何度も何度も聞いたことがある人もいらっしゃるでしょう。しかし、それを受け入れ、従わなかったので、本当に聞いたとは言えません。今日、あなたはついに福音を心の耳で聞くことができますか？サタンによって御言葉の真理を知るあなたの心に目かくしをされることをやめますか？この世で自分が持っているものに目を向けるのをやめて、聖なる神の御前で自分の罪の失敗に目を向けることができますか？イエスが罪人のあなたを罪の罰から救うために来られ、その罪のために死に、神の御怒りを受けて、あなたが創造主である神との関係に戻れるようにされたことを、いよいよ信じますか？イエスの教えに対する適切な答えはひとつしかありません。それは、耳を傾け、聞き、従うことです。祈りましょう。

Mark 4:1-20 The follower of Jesus listens to Jesus

Did you know that there is a difference between hearing and listening? I'm guessing that there are a lot of wives in here who understand that far too well. It may be a stereotype, but many of us as husbands are very good at responding to what our wives tell us, but not really listening to what she is saying. We can say yes to whatever we are asked to do, but then when reminded will say we never remember being asked to do that. As we begin the 4th chapter of Mark today, that is the situation that Jesus will address in what it means to really be his follower. And we have to ask ourselves, do we really listen to Jesus? Today in Mark 4:1-20, we have the first of a series of parables that Jesus is going to share with those listening and then give more details to his disciples. Parables do not actually appear often in Mark. In fact Mark 4 is the only place in Mark where we find any parables of Jesus and one of only two chapters where we see extended portions of Jesus's teaching. In this parable, Jesus is discussing the Word of God, really His own Word as God and our response to it. What we will see is that follower of Jesus listens to Jesus. Let's begin by reading the introduction to this parable in verses 1 and 2. **4 Again he began to teach beside the sea. And a very large crowd gathered about him, so that he got into a boat and sat in it on the sea, and the whole crowd was beside the sea on the land. ² And he was teaching them many things in parables, and in his teaching he said to them:** Once again we see this issue of the crowds gathering. And again, the crowds are not made up of true followers of Christ. But there were so many people that Jesus got into a boat and taught from there so that he could be heard but not crushed by the crowd. It sounds a bit weird when you first read this, but there is a possible location on the Sea of Galilee where thousands of people could hear someone speak in this scenario. There is a natural amphitheater area where the land consists of gentle hills which slope down into a bay area of the lake that is very calm. It is called the "Bay of Parables" today and can easily allow several thousand people on shore to hear someone in the bay. So Jesus is in the boat speaking to the crowds.

Then we get to hear exactly what Jesus says as he teaches starting in verse 3. **³ "Listen! Behold, a sower went out to sow. ⁴ And as he sowed, some seed fell along the path, and the birds came and devoured it. ⁵ Other seed fell on rocky ground, where it did not have much soil, and immediately it sprang up, since it had no depth of soil. ⁶ And when the sun rose, it was scorched, and since it had no root, it withered away. ⁷ Other seed fell among thorns, and the thorns grew up and choked it, and it yielded no grain. ⁸ And other seeds fell into good soil and produced grain, growing up and increasing and yielding thirtyfold and sixtyfold and a hundredfold." ⁹ And he said, "He who has ears to hear, let him hear."** We need to notice how this parable begins and ends. Verse 3 begins with the command to "listen." And then verse 9 ends with the command to "hear." This is the main point in what Jesus is saying, "listen to me!" This will become clear as he explains the parable to his disciples. On the surface, Jesus is telling a story about a man, a farmer, who goes out to sow seeds in the ground. That seed has 4 different outcomes when it gets thrown out. The first group of seeds fell to the ground and didn't even get into the dirt. The birds came and ate it. The second group of seeds went into shallow soil, where it could not develop roots so it was scorched and died. The third group of seeds went into soil that had a lot of thorny weeds which choked out the crops that the seeds were supposed to produce. Finally, there is the fourth group of seeds that actually produce the grain the farmer is after. Now, it's clear that Jesus wants us to do more than just hear a story. The fact that this parable, this story, is significant is seen in more ways than just the fact Mark includes it in his gospel and Peter thought he should

share it with him. The fact that on both sides of this story, he says, “listen to this,” means his original hearers, the ones who were followers of Jesus should absolutely take note of this parable because it is saying something significant. Unfortunately, what we know of crowds is that **most of them may be hearing Jesus’s voice, but not really listening to what he is saying.**

But then the focus turns to the 12 disciples. And in the next 3 verses, the significance of this command to listen is made clear. These verses directed to the disciples connect both the telling of the parable in verses 3-9 and the explanation of the parable in 13-20. Let’s read starting at verse 10. **¹⁰ And when he was alone, those around him with the twelve asked him about the parables. ¹¹ And he said to them, “To you has been given the secret of the kingdom of God, but for those outside everything is in parables, ¹² so that “they may indeed see but not perceive, and may indeed hear but not understand, lest they should turn and be forgiven.”** In these three verses, Jesus defines the difference between the crowd and the true followers once again. And that difference is clear with the word “hear”. The crowd technically “heard” the story, but there is a difference between hearing words and hearing and listening with understanding to what those words are. Now Jesus is going to go on to explain the parable to the disciples, but in verse 11 is really the point of the parable and why Mark is telling us this. Only those who are truly followers of Jesus Christ not just part of the crowd can recognize the true Word of God. The true Word of God is Jesus, who is the incarnate Word of God, as the gospel writer and disciple John describes him. [John 1:14 says, And the Word became flesh and dwelt among us, and we have seen his glory, glory as of the only Son from the Father, full of grace and truth.](#) To most of the crowd there listening to Jesus, the truth of the kingdom of God was not obvious, that the man speaking the parable was the son of God, the Word of God made flesh, in order to save us from our sin. But to those who follow Jesus as his true disciples, Jesus says they have the **“secret of the kingdom of God.”** So, we can only truly listen and hear God’s Word through the incarnate Jesus Christ, who is God come in the flesh. That’s what incarnate means. The majority of the crowd failed to understand, they failed to actually hear and listen, because they did not understand who it was that was speaking. The secrets of the kingdom of God, and the understanding of what God says only comes to those who follow Jesus Christ as his disciples. Only in fellowship with Jesus will this parable or any parable of Jesus reveal the understanding of God’s kingdom to the listeners of Jesus’s day and even us today. Those whose hearts are fully committed to following Jesus will be given this understanding of the secret and the outsiders in the crowd will miss the true meaning through their disbelief in him and not truly hearing what he has to say. And the worst part of not listening, not really hearing Jesus is that you walk away still in your sins. That’s why Jesus says at the end of verse 12, **lest they should turn and be forgiven.** If they really listened and believed in Jesus, they would find forgiveness of their sin. Now, of course, Jesus seems to be saying to some degree that this is intentional. He is implying that idea that God is the one who chooses who will actually hear and respond to Jesus. There is a tension in Scripture between human free will to respond to the gospel and the Scriptural truth that God sovereignly predestines people to salvation. Jesus is simply acknowledging God’s sovereignty in the way he words his statement here.

But the point is that in order to hear God’s Word, to really hear it and receive it, we must follow Jesus, the Word of God. So Jesus will now explain this parable which is all

about how we hear and respond to God's Word, starting in verse 13. And right away in verse 13, he points out how important this particular parable is. ¹³ And he said to them, "Do you not understand this parable? How then will you understand all the parables? Jesus needed his followers to understand this parable since it defined what it means to follow Jesus and hear what he has to say. Then Jesus continues the explanation in verse 14. ¹⁴ The sower sows the word. ¹⁵ And these are the ones along the path, where the word is sown: when they hear, Satan immediately comes and takes away the word that is sown in them. ¹⁶ And these are the ones sown on rocky ground: the ones who, when they hear the word, immediately receive it with joy. ¹⁷ And they have no root in themselves, but endure for a while; then, when tribulation or persecution arises on account of the word, immediately they fall away.^[a] ¹⁸ And others are the ones sown among thorns. They are those who hear the word, ¹⁹ but the cares of the world and the deceitfulness of riches and the desires for other things enter in and choke the word, and it proves unfruitful. ²⁰ But those that were sown on the good soil are the ones who hear the word and accept it and bear fruit, thirtyfold and sixtyfold and a hundredfold." We now know that the seed that the farmer is sowing is the Word of God, which at least in this case is really synonymous with the gospel. The seeds on the path eaten by birds are those who never respond to the gospel, because Satan blinds them to what they hear. This is the majority of the crowds who listened to Jesus. The next group initially might make a profession of responding to the gospel, but there is no root in Christ himself. They are not truly followers and they seem to fall away from their faith. The truth is there was never any root of faith in Christ. They had not truly heard and responded to the gospel in repentance and faith in Christ as Lord. The third group is very similar, but their love for the world and the things that they have keep them from responding to a message that says none of my "stuff" can save me, only Jesus. They are not willing to surrender their lives that seem to be going so well for them and follow Jesus. But remember, the stress of this parable all along has been on hearing the Word of God in such a way that you actually obey it. So the final seed represents that type of person. They hear the Word of God, the gospel, and accept the message they hear, which as we already know is repentance of sin and faith in Jesus Christ. Their lives are changed by it, and the gospel bears fruit in their lives so that those disciples go out on mission making new disciples. Some might have less fruit than others, but all show the fruit of repentance and faith making a difference in their lives. That is what it means to really hear the gospel. You respond in obedience, and it changes your life.

The question remains where do we hear the Word of God? Jesus is not physically with us to teach us. But in this book, the Bible, we have God's Word. We have the inspired, inerrant word of God that has been preserved for us so we know exactly what Jesus wants us to hear and it is everything in this book. These are the very words of God. So this parable then and what Jesus says to his disciples has direct application for us today. As followers of Christ, it is the Word of God that we need our ears tuned to. We need to do more than just open and read words or come sit in a pew and listen to it preached. We need to really hear it, receive it, accept it, and obey it. This is how we follow Jesus, we listen to what he says and obey. We do that by letting the Word of God take root, deep root, in our lives, and produce in us the fruit that shows that we are followers of Jesus Christ. We do that by not letting the things of this world distract us from the most important thing in this world, the Gospel of Jesus Christ as revealed in the Word of God. Christian, some of you in here today are not really listening and hearing from Jesus in a way that changes your life, and it is because you are not

obeying what you hear, which shows you are not really listening. The book of James describes you like this. James 1:23-25 says, [23For if anyone is a hearer of the word and not a doer, he is like a man who looks intently at his natural face in a mirror. 24For he looks at himself and goes away and at once forgets what he was like. 25But the one who looks into the perfect law, the law of liberty, and perseveres, being no hearer who forgets but a doer who acts, he will be blessed in his doing.](#) Brothers and sisters, if we are going to truly hear, it will mean that we act on what we hear so that the fruit of the Word of God is evident in our life.

Some of you in here today have heard the Word, the gospel, over and over again. But you haven't really heard it, because you haven't accepted and obeyed it. Today, will you finally really hear it? Will you quit letting Satan blind your heart and mind to the truth? Will you stop looking at what you have in this world and start looking at the failure of your sin before a holy God? Will you finally believe that Jesus came to save you a sinner from the penalty of your sin by dying for that sin and taking God's wrath so that you can be brought back into a relationship with God your creator? There's only one proper response to Jesus's teaching here. That is to listen, to hear, and to obey. Let's pray.